

国語学習評価問題 — その 2 —

— 中学二年生のばあい —

湯 浅 温 子

⑩ 掲示を尋ねて 学習プリント

二年 氏名

(一) 次の語句の意味の中で、正しいと思うものを選び、記号を○でかこみなさい。

(1) 就業中

- イ 仕事をしている時間中のこと。
- ロ 仕事をしないで、休んでいる間ということ。
- ハ 夜、ねどこの中で寝ていること。

(2) 厳禁

- イ 厳禁と書いたはり紙のこと。
- ロ きびしく、とがめること。
- ハ 大へんきびしく禁止すること。

(二) 次の掲示はそれぞれどんな所に掲示されていて、どんな意味をあらわしていますか。

掲示	場所	意味
火気厳禁		

就業中面会謝絶			
乗車賃はなるべくつり銭のいらぬよう			
片側通行止			
土足厳禁			

(三) ある町の掲示板に、次のような掲示が出ていました。よく読んで後の問に答えなさい。

町内ビンボン(軟式)大会

今回次のおり町内ビンボン(軟式)選手権大会(個人戦)を催します。どうぞふるって御参加下さい。

一、時 十二月十一日(日)午前九時半から

一、会場 町公民館(たゞし女子部第二回戦まで南中学)

校体育館

一、会費 一般の部 五十円 青年の部 三十円

一、申し込み 1申し込みは会費を添えて十一月末日ま

で公民館事務所にお願ひします。申し込み用紙は各校卓球部・公民館事務所にあります。

2十八才未満のかたは青年部に、その他のかたは一般の部にお申し込み下さい。ただし、中学一年以下の人は参加資格がありません。

問1 中学三年生の女子の出場者は当日、どこの会場へ行けばよ

いのでしょうか。

問2 十八才の人はどれに申し込みればよいでしょうか。

1 青年の部 2 一般の部 3 どちらでも

希望の方に 4 参加資格なし

問3 どこへ、いつまでに、どのようにして申し込みればよいでしょうか。

(1) どこへ () (2) いつまでに ()

(3) どのようにして ()

(4) 次のそれぞれの掲示文をみて、よくないと思われる点を書きなさい。

(1) 水をくむ人は注意してくんで下さい。ここでせんたくはお断り致します。

(2) 火薬類・マッチ・揮発油・その他危険品を車内に持ち込み、または手荷物として、送ることはできません。

(3) 町内対抗野球決勝戦

午後一時から、小雨でも決行、於町宮総合グラウンド

(4) 昨日、車内で傘を忘れた方は、取りにおいで下さい。

〇〇駅長

(5) 次に掲示文を書くときの注意事項をかきましたが、よいと思うものを四つ選びなさい。記号を○でかこみなさい。

(1) あいまいなことはや、いい方をさけること。

(2) なるべくくわしくていねいに書くこと。

(3) だれにもわかるような、やさしいことばを使うこと。

(4) 読む人の身になって書くこと。

(5) 要点をしっかりとつかんで、簡明に書くこと。

(6) なるべく、にぎやかな感じをあたえるように書くこと。

① 昭和三十五年度第三学期中間考査国語科問題・二年 36・2・2

(解答はすべて解答用紙に記入して、解答用紙のみ提出する。)

一 次の文を読んで後の問いに答えなさい。

人間を取りまく自然は美しい形や色をしている。その美しさを人間は楽しめます。また自然はたえなる音に満ちていますし、人間のこしらえた楽器も美しい音を出します。われわれはその音楽を楽しむことができます。山を歩くことも、海で泳ぐことも楽しい。本を読むこと

も、友と話をすることも楽しい。

けれども、

目が見えず、耳も聞こえず、病氣や身体の故障で歩くこともできず、人と話すことも医者から禁じられているというような特別不幸な場合を考えてみても、その人は、考えることだけは少なくともできるのです。

ニ
むしろ、

ホ
そういう場合は、他のすべての道を閉ざされた結果、精神の働きの活発になり、普通の人には考えられないような深い思索をすることができるともいえます。

ヘ
このように、

ト
人間は何かの不幸を、他の幸福で埋め合わせずにはいられないようにできているのです。

① 左のような考え方で、右の文章の要点をつかもうとしています。(1) () 内に入れるのに適当な記号(イ・ロ……)を書きなさい。

(1) () のことは、その前の部分が(2) () の例に相当することを示している。その例に相当するのは(3) () から、(4) () までである。一方、(5) () の内容は、(6) () の内容と反対の立場を示していて、全体の考えからすれば、(7) () の部分を出すためにここに置かれたといえる。つまり、(8) () から(9) () まで、要点を導き出す部分だといえよう。以上の考えから、(10) () が要点で

ある。

② ——— の箇所は、次のどの気持ですか。適当なものを一つずつ選び、その記号を書きなさい。

ハ 1 考えることだけならできるとは思いません。

2 考えることなら少しだけできるのです。

3 考えることだけでもできるのです。

ホ 1 深い思索をすることができるとははっきり言えません
が……。

2 深い思索をすることができないかもしれません。

3 深い思索をすることができるとは思いません。

ト 1 埋め合わせる必要があるように

2 場合によっては埋め合わせるように

3 どんなことがあっても埋め合わせるように

③ ——— の「られ」と同じ意味の「れる・られる」を持つ文の記号を○で囲み、他の記号は×で消しなさい。

1 他のすべての道を閉ざされる。

2 普通の人には考えられないような深い思考。

3 身心ともに疲れる。

4 埋め合わせずにはいられないようにできている。

5 火にも焼かれます。

④ ——— のことばのうちで、主語文節である場合の文の記号を○で囲み、他の記号は×で消しなさい。

1 自然は美しい形や色をしている。

2 その美しさは人間が楽しみます。

3 世界はどのように多くの美しいものがあることか。

- 4 どのように人の心は微妙なものであることか。
- 5 運命はわれわれの手によって幸福に変えていくことができる。

⑥ 「生を受けた以上、ついにまぬかれることを得ぬもう一つの苦惱のうちに、清らかなる泉をわかしめよ。」

右のことばを、もっとわかりやすくしながら（——の部分はいかえて）、きみの決意として書きなさい。

(例) 「最善をつくせ。」 ↓ 「わたしは、できるかぎりの努力をしよう。」

二 二次の諸例で、コペルニクス風の考え方をしている場合には記号を○で囲み、そうでない場合には×で消しなさい。

- 1 人間は分子のようなものである。
- 2 電車通りはうちの門から左の方へ行つた所にある。
- 3 企救中学校は、小倉市北方にあります。
- 4 自分につごうのいいことだけを見ていこう。
- 5 東の地平線から太陽がのぼってきた。
- 6 かれば、わがままでがんこで、ちっとも親切にしてくれません。
- 7 人間は、生涯をなかだちとして、お互に深く結びついている。
- 8 汽車に乗ると、風景があわただしく後へ去って行きます。
- 9 はるか向こうを行く船をごらんなさい。船の下の部分は見えず、なくて帆だけが——。地球は丸いのです。
- 10 ふいむ。それには気づかなかつた。地球は平べったいものだとばかり思っていたよ。

三 中央廊下に次のような掲示が出ていました。読んで後の問いに

答えなさい。

「カレドニア号出帆す」観劇について

一、時 二月二日午後一時十五分開演

一、場所 市民会館

一、費用 イ 観劇料 三十円 ロ 交通費 十五円

(ただし、観劇料は学年費から出します。)

一、申し込み方法 一年生全員及び二、三年の希望者は、交通費を添えて、二月一日までにクラス会計に申し込んで下さい。

一、注意 イ 観劇中は便所に立たないこと。

ロ ロビー(入口広間)に出ないこと。

ハ 観劇中は静かにすること。

ニ 食べものを持って行かないこと。

ホ 申し込み者三十人未満のクラスは、他のクラスと合わせて一組とし、座席を決めますから、席をまぢがえないようにして下さい。

へ 昼食後、校庭に集合してから出発します。

① 「カレドニア号出帆す」は次のどれですか。記号を書きなさい。

イ 劇 ロ 映画 ハ 音楽会 ニ お話の会

② 二年生がクラス会計に出すお金はどれですか。記号を書きなさい。

イ 三十円 ロ 四十五円 ハ 十五円

③ 他のクラスと合わせられるのは次のどのクラスですか。記号を書きなさい。人数は希望者数です。

イ 二十九人 ロ 三十人 ハ 三十一人 ニ 三十二人

④ 山本君は、弁当を忘れてきたので、会場に行く途中でパンを

買い、会場で食べることにしました。この山本君の行為に對してきみはどうしますか。簡単に説明しなさい。

⑤ 会館内での注意事項の記号を○で囲み、他の記号は×で消しなさい。

四 次のカタカナのことばを漢字になおしなさい。

- 1 ケイザイ的・ノワリツ的方法。 3 センモン家の意見にシタガ
- 5 シュウギョウ中、メンカイ謝絶。 物ごとを正確に知る
- 7 ケイケンとカンサツとが必要である。 生活のクロウを
- 10 オギナウに足る楽しさ。

五 次の漢字の読みをひらがなで書きなさい。送りがなも書きなさい。

- 1 実施 2 縮む 3 平易 4 技術 5 翻訳 6 和らぐ 7 唱える 8 驟雨 9 隣人
- 10 減びる

昭和三十五年第三学期中間考查国語科・二年・解信用紙

一	①	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
	②	ハ	ホ	ト		
	③	1	2	3	4	5
	④	1	2	3	4	5
	⑤	わたしは、				

二 6 1
7 2
8 3
9 4
10 5

三 ①
②
③

四 ⑤ イ
④ ロ
ハ
ニ
ホ
へ

	五	四
6	1	6
7	2	7
8	3	8
9	4	9
10	5	10

三学期中間考查成績

二の五	二の六	二の七	二の八
男子平均	女子平均	クラス平均	
五三・三	五八・九	五五・七	
五一・九	五六・二	五七・三	
五四・五	六一・〇	五四・〇	
五四・五	五三・六	五七・三	
		五四・一	

() (組) () (番・氏名) ()

一 左の短歌について述べたものとして最も適当なものを、次の文中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を短歌の下の()内に入れなさい。

1 日曜日早く起きいでふろの火をたきつつをれば小鳥鳴くなり

2 いちどきに楽鳴るごとはなやかに夕ばえゆらぐ坂の上の空

3 机に花を飾ってしみじみ美しいということを考えてみる

4 出でそめしやさしきものの芽をかこひ日なたにしばし思ひや
すらぐ

イ 身も心も冷えこごえてしまふような寒い朝、たき火にあたってやっとからだが暖まり、ほっとした気持がよく出ている。

ロ 一首全体が口語でつくられているが、この場合、読む者の共感を誘って、よい効果をあげている。

ハ 読みぶりは幼いが、ありのままを歌っていて、調子も内容に
応じて軽快である。

ニ 音楽の演奏がはなやかにはじめられた瞬間の、心のゆらぎ
を、よんだものである。

ホ ここには、成長していくものへのいたわりがある。しかもその
いたわりが作者自身の心をなぐさめるものとなっている。

へ 目の前の美しさに向かいあい、浮き立ってくるような感じ

で、その美しさに見とれているところである。

二 つぎの短歌について、それぞれの問に対する答の中で最も適当なものの番号を○でかこみなさい。

金色いちぢょうの小さき鳥の形して銀杏いちょうちるなり夕陽の丘に

初句 二句 三句 四句 結句

問(1) 右の短歌はどこで切れますか。

1 初句 2 二句 3 三句 4 四句 5 結句

(2) 季節はいつですか。

1 春 2 夏 3 秋 4 冬

(3) 「金色の小さき鳥の形」とは何をさしていますか。

1 夕陽に照らされて空を飛んでいく鳥

2 銀杏の葉

3 お寺の風見の鶏

(4) この短歌の感じを、次の語から二つ選びなさい。

1 童話的 2 写実的 3 思想的 4 夢想的

5 絵画的

三 つぎの短歌を読み、あとの五つの問について、それぞれのあとにあげた答の中から、最も適当なものを一つずつ選び記号を○で囲みなさい。

別れゆく春のかたみとふじなみの花の長ふさ絵にかけるかも

問(1) 作者は何と別れるのか。

イ ふじの花 ロ 友 ハ 春 ニ かたみ

(2) この歌で、「かたみ」はどんな意味に使われているか。

イ 思い出のたね ロ けしきや姿 ハ 別れた人の遺品

(3) 作者は何を絵に書いたか。

イ友の姿 ロ春のけしき ハふじの花

(4) この歌の感じを述べた文を、次のうちから一つ選びなさい。

イたいへん情熱的で、作者の感動が強く出ている。

ロおちついた歌で、昔をなつかしむ気持がこもっている。

ハ暗くしずんだ調子の中に、悲しみの色がただよっている。

ニさっぱりとした歌い方の中に、作者の深い感動がこもっている。

(5) この歌は、正岡子規の歌である。正岡子規は、つぎのどの人と最も近い時代の人か。

イ紫式部 ロ松尾芭蕉 ハ柿本人麿呂 ニ夏目漱石

四 次の文を読んで、あとの問に答えなさい。

広々と晴れ渡った大空を仰いだ時、美しい風景に向かった時、

あるいは大きな悲しみや喜びごとであった時、私たちの心は生き／＼と波立ちゆれることを感じるでしょう。また、この心の動きをなんらかの形で表わしたい欲求を感じるでしょう。詩はこの心の動きをことばをもって表わしたものです。空をただよう雲をながめて、「ああ、美しい雲だなあ。」と思った心の感じを、外に表わさなければ詩にはなりません。この外に表わすことを表現と言いますが、詩はもちろん、文学でも、音楽でも、絵画の場合でも芸術はすべて表現されて成り立つものなのです。文学はことばによって、音楽は音によって、絵画は線と形と色によって、作者の心の感じや考え方を表わしているのです。

詩はことばのなかだちによって、私たちの心の動き——感動を伝えるものです。同時に形の持つ独特の美しさで表わされたものを

です。

物事の感じ方は、人により場合によりさまざまですが、この感じや考えが詩の内容ともいふべき「詩精神」です。言い換えれば、「詩精神」とはある高揚したところの状態と言えるでしょう。詩はこの詩精神を、それを表わすのにふさわしい形を取って表現したものです。

ある高揚したところの状態というのは、何事か、あるいは何物かによって、感動を受けた状態にある時です。この燃焼した気持ちをことばによって表現したものが詩ですが、ことばによって表現するものは詩だけに限りません。小説もそうですし、劇もそうです。また随筆とか批評とかいった種類のものもそうです。これらのものを総称して私たちは文学と呼んでいます。

——大木実『詩の世界』による——

問(1) 右の文を読んで次のように何人もが、詩とはどんなものをつかまどめました。だれのがもっともよいでしょう。

一郎 詩とは、燃焼している気持をことばによって表現したものです。

文子 詩とは、内容が美しく、形式は七五調か五七調などときまっています。

次郎 詩は心の動きを外に表わしたものです。

春子 詩は高揚した心——詩精神をことばで表わしたものです。

五郎 詩とは、感動をことばをなかだちとして、それを表わすのにふさわしい形のもつ独特の美しさで表現したものです。

⑬ 推敲の目あて

- 1 句読点(「・」や「、」)はきちんと打つてあるか。
 - 2 会話文と地の文とは区別してあるか。(カギ「――」)
 - 3 脱字はないか。
 - 4 誤字はないか。
 - 5 かなづかいの間違ひはないか。「一」を「一」は「一」など)
 - 6 主語と述語の関係はととのつているか。
 - 7 文体は統一してあるか。
(敬体―です・ます体、常体―だ・である体)
 - 8 時(テンス)はちがっていないか。
 - 9 ことばのおき方は適當か。
 - 10 一つの文の中に同じ語句がはいっていないか。
 - 11 よけいな語句がはいっていないか。
 - 12 一つの文に、いくつもの考えがごちゃごちゃはいっていないか。
 - 13 同じことばを何度も使っていないか。
 - 14 ことばがぬけて、意味がわかりにくくなっているところはないか。
 - 15 段落を考えて書いてあるか。
 - 16 文字はていねいに書いてあるか。
- 推敲しよう。
- (1) 先生、御病氣はいかがですか寒い日が毎日つづくので心配で
たまりせん。けさ、正夫さんにあつたらしく、きのお先生のと

ころへお見舞に行ってきたよ。といいました。正夫さんのゆり
のをきいて、ほくも行きたくになりました。

先生、早くなをって、元気な顔をみんに見せてください。

(2) きょうはめづらしく元気がよい。

(3) 私は、心配のあまり水さへのどをとらなかつた。

(4) 自動車を運転するには専門の技術を要する。

(5) ほくの感じたことは、友達というものはもたなくてはならな
いものだと思つた。

(6) 雪がふるのは、日本海の上をふいてくる風が、水じょう氣を
たくさんふくんでいるので、これが山にあたつてひえ、雪がふ
るのです。

(7) 早く新しい校舎がたつて、みんながよろこんだ顔がみたい。

(8) ねこが、ほくの家のまどのほつて、ニャゴニャゴとないて
いる。ほくはねこや太などはだいすきです。

(9) ボールおあてようとしたが、階段の下にはいつて出てこない
ので、一発階段にすき間がいてるので、そのすき間の中え
ボールおなげた。

(10) 私はよろこんで、大きな声をあげてよろこびました。

(11) 私は、この間は、この組が二組にわかれてけんかしました。

(12) ほんとうに三年生になれば心配することばかりあつて、ほん
とうにわからない。

(13) いま、ぼくたちは国語の勉強で、子供通信というのをならつ
ていて、ちやうど、いそべ先生がこられたから、いそべ先生の
おしえていたおきなわの君たちに、出すことになりました。

佐々雄は胸に帽子を抱くように持っている。中にかかるの卵が七つはいつている。

ふたりの姿を見て、じいさんは

じいさん「ははははは。() ()これはまあ、

先生さん、えらいかっこうで、……田うないでもなさった

んですかい。たいへんな世の中になったもんで、先生がた

んぼ作り、やりきれませんな。() ()

それで、ぼっちゃんお手伝い？ 感心ですなあ。百姓のせ

がわでも、田うないはいやがるのに……。おや？」()びっ

くりしたように、目を光らせ、一足佐々雄に近づく。()

佐々雄 () 「……………」

じいさん「ははははは、ぼっちゃん、えらいものを見つけて

来ましたな、じいが七つの百両で買いますよ。いい値でし

ょう、七つの百両。」

佐々雄 () 「佐々雄、どうしたの。な

んなの。」

じいさん「

……………」

佐々雄 () 「売らないよ。この卵にはわけ

があるんだから。」

この先を續けてノートに書いてごらん下さい。

⑮ 昭和三十五年度第三学期期末考査国語科問題

36・3・7

二年 組氏名 ()

(一) 次の文章の () 内に入れうる語を後から選び、記号で入れなさい。

漢字は日本にはいつてからでも () () に近くなるが、その昔、わが国には固有の文字がなかったもので、() () を使って表わすことになった。「みなみ」という () () を書き表わすために、「南」という漢字を使った。この関係が固定してくると、「南」という漢字は、() () と読むことに決まってくるのである。こんなわけで、中国にはない () () が生じた。

また、() () だけで日本語を完全に表わすには無理がある。そこで、漢字の一部を取ったり、() () の変化から進んだりして、() () () という日本独特の文字を作り出して、今日に至っているのである。

イ 文章	ロ 文字	ハ 書体	ニ 中国語	ホ 音
ヘ 訓	ト 日本語	チ 発音	リ ひらがな	ヌ かたかな
ル 表語	オ 表音	ワ 象形	カ 形声	ヨ 漢字
タ みなみ	レ ナン	ソ 南	ツ 二千年	ネ 三千年
ナ 五千年				

(二) 漢字をその成り立ちから分けると、象形文字・指事文字・会意文字・形声文字の四種になります。説明欄には、後の説明文の適当なものを選び、記号で記入しなさい。またその例として適当な漢字を下から選んで記入しなさい。

三学期期末考査成績

クラス	男子平均	女子平均	クラス平均
二の五	四六・〇	五四・四	五〇・〇
二の六	四一・〇	五二・七	四六・四
二の七	四二・二	五一・二	四六・四
二の八	四七・一	五五・八	五〇・八

⑩ 昭和三十五年度第二回模擬考査問題

言語	志望校	受験番号	出身校	氏名	得点
	高校				

(一) 次の文は、畑辰雄の小説「風立ちぬ」についての解説文です。よく読んで、あとの問に答えなさい。

「風立ちぬ」の文脈には、多くの感動がひしめくように描かれていて、一句一句の区切りも、以前の作品より長くなってきている。そして作者の心に残る一つの印象が描かれる場合、その印象は、常に時を隔てた他の印象を呼び起こしながら表現されている。又構成の上からも、巧妙に時の流れが立体的にさえ感じられるように工夫されていて、それだけに読者の受ける感動もふくざつて奥深い。

「それは、私達が始めて出会ったもう二年前になる夏の頃、不意に私の口をついて出た。そしてそれから私が何と何と何と何と口ずさむことを好んでいた。」

風立ちぬ、いざ生きめやも。

という詩句が、それきりずつと忘れていたのに、又ひょっくりと私達によみがえってきたほどの、——いわば人生に先立った、人生そのものよりかもっと生き生きと、もっと切ないままでいたのしい日々であった。」

試みに、「風立ちぬ」のうちのふと眼についた箇所を引用してみたわけだが、文体が時間の経過に重点を置くようなくあいに変わってきていることは、「聖家族」その他とたいしうしてみると、なおよくわかることだろう。「風立ちぬ」は、一面において、「美しい村」までの作品と趣を異にし、が、「序曲」「春」「風立ちぬ」「冬」「死のかげの谷」の各章によって、やはり完璧な型を示した作品だった。ただ作品を完璧な型にくくる構成のもとが、() によってなされている。

問(一) 右の文章中——線をつけたことばのうち、ひらがなの部分は漢字を、漢字の部分はそのよみがなを次の欄に書き入れなさい。

イ	ロ	ハ	ニ
---	---	---	---

問(二) () 内に、次のことばのうち最も適当なもの一つを、記号で入れなさい。

- イ 文脈 ロ 感動 ハ 印象
ニ 時間 ホ 文体 ヘ 各章

問(三) 「それは、……日々であった。」のように直接本文を持ち込むことを何と言いますか。解説文中の語で答えなさい。

問(四) 次の各々で、正しい方の記号を○でかこみなさい。

A 小説中の「それは」と指されている印象は、

イ 作者の心に残る一つの印象に相当する。

ロ 呼び起こされた、時を隔てた他の印象に相当する。

B 「風立ちぬ」と「美しい村」までの作品との比較は、

イ 一面的になされている。

ロ 多面的になされている。

C 小説「風立ちぬ」は、

イ 「序曲」「春」「冬」「死のかけの谷」などの小説と

並ぶ一篇である。

ロ 「序曲」「春」「風立ちぬ」「冬」「死のかけの谷」

から成り立っている。

(二) 次の——線部分の漢字の右側によみがなをつけなさい。

遊説している首相の施政方針演説の中に矛盾した点があった

が、翌日掲載された新聞を読んで納得した。

(三) 次の詩を読んで間に答えなさい。

暑いほどに

秋の日の照り

はちが、甘いおいしいみつをもとめて、

ほしがきにとまったりはなれたり、

ほしがきはなにも知らずに、

ただ太陽の光を

まぶしく受けている。

白い壁に、かきのかげが黒く
数珠のようにつづいている。

丸く長く——
はちのかげが動いている。

問(一) この詩に題をつけるとしたら次のどれがもっとも適当か、

その記号を○でかこみなさい。

イ 秋の日 ロ かきのかげ ハ 白い壁

ニ はち ホ ほしがき

問(二) 〓イ〓なにも知らずに〓とあるが、何が何を知らないの

ですか。

何が〓 〓何を〓

問(三) 〓線〓ハについて答え、次の欄に書き入れなさい

〓線〓の語	品詞	その語が修飾している語	そこで使われている活用形
ロ ただ			
ハ 黒く			

問(四) 「丸く長く——」の「長」の下にどんなことばを補ったら

よいでしょうか。

問(五) 「丸く長い」のは次のどれですか。その記号を○でかこみ

なさい。

イ 数珠 ロ かき ハ かきのかげ

ニ はちのかげ ホ はち

問(六) 次の短文は色々な作品の簡単な説明文です。それぞれの作品名

を解答欄に書き、かつ時代順にならべて番号で記入しなさい。

1 吉田兼好の書いた随筆集で、自然や人事に対する情熱や感想などが述べてある。古代へのあこがれ、簡素でもの静かな趣、しみじみとした深い趣などを求め、仏教の無常感が強く出てい

る。

2 おごる平家が源氏と戦って、次第に勢いを失って亡びていく姿を描いた戦記物語。仏教の無常感が中心になっている。

3 一条天皇の皇后に仕えた一女性が、鋭い目で見た宮廷生活や自然に対する感想や経験を述べたもの。わが国の最もすぐれた随筆といわれ、紫式部の源氏物語と並び称される。

4 大伴家持が中心になって編んだといわれるわが国でもっともすぐれた大歌集。その歌は調子が高く剛健で男性的であり、当時の人々の感動が率直に表現されている。

5 詩人として有名だった作者がはじめて書いた自然主義の小説で、特異な環境に生まれた主人公の苦しみを描いたもの。

6 元祿二年、江戸をたつて奥州から北陸をめぐる大垣に至る六ヶ月の紀行文。紀行文としては最もすぐれたものといわれ、旅の情景がよく写されている。

作品名

1
2
3
4
5
6

時代順

(四) 次の例文のうち、見出しのことばが最も正しく使われているものの記号に○をつけなさい。

発揮する

- (イ) きょうは待望の野球大会だ。きょうこそほくのうでまえを發揮する日だ。
- (ロ) 四百メートル競走の最後の百メートルで速力を發揮してぐんぐん抜いた。
- (ハ) きょうのテストで満点がとれるように昨夜は大いに実力を發揮して勉強した。
- (ニ) 本を説んでいたら、山本君がいきなり大きな声を發揮したので驚いた。

挙動

- (イ) もう少しボールを打つ挙動を会得すれば野球は上達する。
- (ロ) 戸口をのぞいている男の挙動がどうもおかしい。
- (ハ) 工場では機械がごうごうと挙動し始めた。

率直に

- (イ) 姿勢が悪いので背骨を率直にしなさいと注意された。
- (ロ) 大急ぎで走って来た彼は率直な気持で電車に乗り込んだ。
- (ハ) この本は農村の中学生の生活が率直に書かれている。

第二回模擬考査成績

計	B	A	クラス	
			受験人員	平均
94	45	49		
51	44	57		

問題別正解者数

一 問(一)

計	B	A	正解者数	
			人数	%
44	13	31	人数	イ
46.8	28.9	63.3	%	
80	34	46	人数	ロ
85.1	75.6	93.9	%	
24	12	12	人数	ハ
25.5	26.7	24.5	%	
8	1	7	人数	ニ
8.5	2.2	14.3	%	

問(二)……………(正解 二)

計	B	A	正解者数	
			人数	記号
30	16	14	人数	イ
8	3	5	人数	ロ
10	7	3	人数	ハ
23	6	17	人数	ニ
24.5	13.3	34.7	%	
12	7	5	人数	ホ
16	6	4	人数	ヘ
1	0	1	人数	解なし

問(三)

計	B	A	クラス
			人数
38	12	26	人数
40.4	26.7	53.1	%

問(四)

計	B	A	正解者		記号
			ク ラ ス	人 数	
46	23	23	人数		A
9.6	0	18.4	%		
24	10	14	人数		B
39.4	26.7	51.0	%		
87	42	45	人数		C
92.6	93.3	91.8	%		

二

計	B	A	正解者		問題
			ク ラ ス	人 数	
9	0	9	人数		遊説
9.6	0	18.4	%		
37	12	25	人数		矛盾
39.4	26.7	51.0	%		
87	42	45	人数		納得
92.6	93.3	91.8	%		

三 問(一)……(正解ホ)

計	B	A	正解者		記号
			ク ラ ス	人 数	
30	14	16	人数		イ
9	1	8	人数		ロ
4	2	2	人数		ハ
6	5	1	人数		ニ
35	20	15	人数		ホ
37.2	44.4	30.6	%		
10	3	7	人数		解なし

問(二)

計	B	A	正解者		問題
			ク ラ ス	人 数	
91	44	47	人数		何が
96.8	97.8	95.9	%		
66	33	33	人数		何を
70.2	73.3	67.3	%		

計	B	A	クラス
39	14	25	人数
41.5	31.1	51.0	%

問(四)

計	ハ		ロ			問題	
	B	A	計	B	A	クラス	正解者
77	33	44	41	18	23	人数	品詞
81.9	73.3	89.8	43.6	40.0	46.9	%	詞
38	16	22	34	9	25	人数	被修飾語
40.4	35.6	44.9	36.2	20.0	51.0	%	語
54	21	33				人数	活用形
57.4	46.7	67.3				%	

問(三)

計	B	A	クラス		正解者	問題
			人数	%		
78	31	47	人数	%	1	1
83.0	68.9	95.9	人数	%		
65	28	37	人数	%	2	2
69.2	62.2	75.5	人数	%		
35	10	25	人数	%	3	3
37.2	22.2	51.0	人数	%		
51	22	29	人数	%	4	4
54.3	49.0	59.2	人数	%		
6	0	6	人数	%	5	5
6.4	0	12.2	人数	%		
51	16	35	人数	%	6	6
54.3	35.6	71.4	人数	%		
21	6	15	人数	%	順時代	代
22.3	13.3	30.6	人数	%		

四

計	B	A	クラス		人数	記号
			人数	%		
3	1	2	人数	%	イ	イ
2	1	1	人数	%		
58	23	35	人数	%	ハ	ハ
61.7	51.1	71.4	人数	%		
19	9	10	人数	%	ニ	ニ
1	0	1	人数	%		
1	1	0	人数	%	ホ	ホ
1	1	0	人数	%		

問(五)……(正解ハ)

計	B	A	問題 正解者 クラス	
			人数	率直に
81	36	45	人数	発揮する
86.2	80.0	91.8	%	
41	17	24	人数	挙動
43.6	37.8	48.9	%	
90	42	48	人数	率直に
95.7	93.3	98.0	%	

三 出題（問題作成）にあたって考えたこと

右にあげたものは、わたくしが昭和三十五年度に実施した国語学習評価問題のほとんどすべてである。（このほかに、随時テストとして、書き取りと漢字の読みのテストをいく度か行なったが、これはドリルの目的もあわせもっているので省略した。）ここで、問題作成にあたって考えたことを、いくらか述べておきたい。

第一には、国語の学力が広くつかめるようにしたいということである。「読むこと」だけにかたよらないで、できれば「話し聞くこと」にもおよびたいと思った。結果的には、かなり知識主義的になってしまったが、意図としてはそういうことも考えていたのである。

第二には、一人一人の学力がつかめるような問題を作成したいということである。そのためにも、評価項目（何を評価するのかとい

うこと）をいつも念頭において作成しようと思がけてきた。

第三には、生徒の学習のうらをかよく出題のしかたを、できるだけさげよとした。まじめに学習すれば、その結果がテストの成績にもあらわれてくるようでありたいと願った。これは、評価の目的が、主として学習の成果をみることにあったことにもよるが、さらに大きな教育効果を考へてのことでもあった。

第四には、定期試験のばあい、中間試験の方が期末試験よりもいっくらかむずかしくなるように心がけた。中でしめて、終わりでは生徒にいっくらかでも満足感を与えるようにしたいと思つたからである。

そのほか、テストの形式については、客観体を主として、記述体も加えていくようにということも考へたが、おもなこととしては、以上の五点が「出題にあたって考へたこと」である。

四 反省と今後の問題

誤答分析が時間的にむりできなかったので、深くつっこんだ具体的な反省ができないのが残念である。ここでは、いくらかの気づきを述べるにとどめたい。

採点中に気づいたことは、生徒が問題をよく読まないということである。早のみこみの解答がしばしば見られる。これには、問題の分量、形式の上で反省してみなければならぬ点もあるのではないかと考へられる。

次に、成績の上からみて気づいたことは、全般に女生徒の方が男生徒よりも成績がいいということである。これは、おそらく日ごろの学習態度のちがいによるものと思われる。「まじめに学習しておればできる問題」を心がけたのであるが、ここにはもっと深く考へ

てみるべき問題があるようである。もし、問題が、たんなる「記憶の量」をみる問題になっていたらとすれば、日ごろの学習も、もっぱら「暗記」を強いるものになりかねない。もちろん、その逆のばあいもあるわけである。これについても、今後の課題として考察を深めていきたい。

評価項目については、さらに分析を深くして、もれないように心がけなければならぬ。そのためには、定期試験だけではなく、小テストをこまめに行なう必要がある。評価の方法もくふうしなければならぬ。一人一人の学力がよくつかめるように、いつそうのくふうを加えたい。

生徒の実態に応じた問題作成も今後の課題である。経験年数一年では、ともかく問題を作成することだけでせいっぱいであったが、これからは、できるだけ生徒の実態をつかんだりえで、それに適した問題を作成していくようにしたい。

そのほかにも、反省すべき点は多いであろう。大方のお教えをえて、少しずつでも前進をはかるようにつとめたい。

(小倉市 企教中学校)